

OLIVE-SPIRIT

関東学院学報 オリーブ・スピリット

Sep. 2014 No.

48





「関東学院の未来像」

これからの社会を見据え、さらなる飛躍をもたらすために、
学院はいま、総力を結集して将来のあるべき姿、
「未来ビジョン」(仮題)の策定に取り組んでいます。
まずはキーマンとなるこの3名に、それぞれの思いをうかがいました。



来たるべきグローバル化 社会に向けた対応を！

未来に対する意識を共有し それを実行に移していく

人間教育のDNAを見つめ直す 建学当初から流れる



これらの教育機関は、偏差値の高低という入試難易度ではなく、もっと本質的な「教育の質」で選ばれる時代になります。これから社会は、さらにグローバル化が進む社会です。アメリカ、ヨーロッパ、オセアニア地域のみならず、アジア、南米、中近東といった人たちとも十分な意思疎通ができないと、将来的には日本の社会が成り立ついかないだろうと思います。そのためには英語力が必要です。しかもた大会話ができると、相手の立場や文化を尊重し、なおかつお互いの共通利益を見出して問題解決のために前進できる未来志向の人間であることが重要なのです。

それゆえ、学院では英語を普段から活用する環境づくりに着手します。学内にイングリッシュビレッジを設けることで、今

後、国際的な仕事に就いたときにも、遅れを取らない人材を輩出したいと思っています。

一方で、ただ語学に長けていればいいというものでもありません。海外へ赴き、相手にリスペクトされるには、かかるべき専門性を持っていることが不可欠です。専門的知見なくして、日本語書きだけで仕事をしようとしても、まったく相手にしてもらえません。それゆえ学生のうちに基礎となる学問をしっかりと身につけなければいけないです。そして将来にわたり、仕事に携わるなかで自分の専門性を磨いていくことが大切だろ

うと考えています。

大学には、最新の技術や現代社会に対応する専門領域を持つ教授陣が大勢います。そのなかで自分の立ち位置を見定め、自分はここだと思ったら、その専門性を身につけていくことです。また人間の魅力といふものは、いま申し上げた専門知識だけでは片付きません。他人と話をしていて面白いなと感じた状況を思い浮かべてください。さまざまな引き出しを持つ人物こそ魅力的に映りますよね。学校の授業はもとより、芝居を観たり、音楽を聴いたり、絵画を鑑賞したり、そうしたバラエティに富む感性を備えた人に、魅力を感じ共感するのです。

初等教育からはじまり、大学までの高等教育を経ていく期間というのは、専門知識を勉強する以外に、そうした人間的な厚みを形成する時期もあります。ですから、質の高い教育によって知識やスキルの習得を目指すだけではなく、人間形成の下地をつくる情操教育に対する機会も、十分に提供できるように努力していくたいと考えています。

増田 日出雄
関東学院 理事長

株式会社日揮にて副会長を務めた後、関東学院の常務理事を経て、2013年に理事長職に就任。「関東学院の中期計画『O-LIVE7』」を実行しはじめた既に3年が経過しました。今年は、この期間の見直しを含め、学院のさらなる飛躍を実現するために、全校校が一体となって次なるアクションに臨みたいと考えています」。

本間 政雄
関東学院 常務理事

旧文部省を経て、京都大学、立命館大学などの理事、副学長を経て、学院の常務理事に就任。関東学院の意図決定のあり方を、時代のスピードに合わせてもっとも速く加速させつつ、いざなうところをさらに伸ばしていく。そうすることで学生に選ばれ、教員に選ばれ、社会から選ばれる教育機関になる。そのためのビジョンづくりをしています」。

規矩 大義
関東学院大学 学長

九州工業大学大学院修了。2002年より関東学院大学工学部に着任。昨年、学長に就任。「人にになれ奉せよ」は、坂田祐の言葉ですが、その意図は、信仰のあるなしを問わず、あらゆる人々にとって受け入れられる言葉です。私はクリスチヤンではありませんが、この関東学院のスピリットを愛し、共感しています」。

関東学院は、創立130周年を迎える今年、「未来ビジョン」(仮題)という形で10年後の学院のるべき姿を描き、その実現に向けて大きなスタートを切ろうとしています。若年人口の減少や「グローバル人材」に見られる社会の人材ニーズの劇的な変化など、学院が早急に取り組むべき課題が山積していますが、「未来ビジョン」では、今後とも「選ばれる」学院であり続けるために何が必要かを30~40代の中堅職員を中心して徹底的に議論し、具体的方策を取りまとめることとしています。

4月26日の第2回学院政策レビューで幕を開けた「未来ビジョン」策定プロセスは、法人(意思決定プロセス、事務組織、キャンパス・デザインなど)、大学(教育、学生支援、研究)ごとのWGに分かれて精力的に議論を行つており、10月4日の第3

回政策レビューでの第1次案発表を目指しています。その後、広く学内外の関係者の意見を聞いた上で12月中の最終案取りまとめを予定しています。なお、こども園から高校までの各校の「未来ビジョン」は、来年度策定することとしています。

「未来ビジョン」検討にあたって、WGメンバーや取りまとめにあたる副学長、法人事務局長には、「これまでの経過にとらわれず、関東学院で学んで良かった、関東学院の卒業生を採用して良かった、関東学院の卒業生として誇りを持てる、と心から思えるような魅力的な学院を作るには何が必要か、という観点からのみ、タブーなく検討してほしい」とお願いしています。

そうなると、当然、現在の制度の大胆な変更やこれまで経験したことのないような挑戦を行うような提案が盛り込まれることが想定されます。現に、大学WGでは、新たな学部の設置やキャンパスの大胆な再配置、国際コースの設置や留学生の受け入れ・派遣の思い切った拡充、社会で求められる力の育成を図る教育改革研究の活性化、学生の主体的な学びの支援、デザイン性の高いキャンパス環境の実現、ラーニング・コモンズやお洒落なカフェなど学生の居場所の拡充などが議論されていますし、法人WGでは、迅速で効果的な意思決定の仕組みや優秀で意欲の高い教職員をいかにして採用し、育成していくか、効率的な事務組織はいかにすべきかなどの議論を行っています。

「ビジョン」はあくまで「ビジョン」にすぎず、実行が伴わなければ「絵に描いた餅」になります。「未来ビジョン」策定後、直ちに学院の責任者による「未来ビジョン推進会議」といった組織を設け、必要な予算、組織を整えて不退転の決意で実現を期したいと考えています。

大学の目標として、中長期的なビジョンを策定するにあたり、今までにいる学生たちの存在を決して忘れてはなりません。学生支援というと、少し言い尽くされた言葉ですが、いつでも学生のそばにいる、常に学生と一緒に何かをする、そういう雰囲気が関東学院にはあると考へています。それは他の大規模な教育機関とは異なり、多くの学生を受け入れ、就職率を一律に高めるのとは違う手づくり感があるよう思っています。そこでは、ただ知識や技術を与えるのではなく、まさに人間教育が行われてきたことを私たち知っています。そのDNAは今でもあると私は思います。逆に、もしもこの建学当初から脈脈と続く意を忘れてしまったならば、関東学院として生き残る道はない

と思います。学生一人ひとりにいかに丁寧に向き合えるか、そこに学院の伝統が生きると私自身、信じています。

今、社会ではグローバル化がキーワードになっています。とはいっても2015年にスタートする国際文化学部が想定するグローバルと、看護学部のグローバルとは違つて当然。画一的なグローバルである必要はありません。

では大学全体として捉えるグローバルとは何かというと、他者を理解し、さまざまな文化背景を持つ方々との共生ができるということ。それが結果として外国人の方々や、利益が異なる方々との問題解決に繋がります。そのためには自分自身をきちんと理解して、自分自身をきちんと愛することができて、そして自分自身に自信を持つことができないといけません。そうでなければ、他者に共感し、愛することはできないのではないかと思います。

グローバル化社会に向け、語学スキルを高めることは大切です。しかし、社会で活躍するための真の実力、知識や技術に加えて、教養に裏打ちされた態度や礼節、何より人ととの繋がりを意識した人間力は今しか学べないです。それは、まさに個の確立という命題に重なります。そのためには教育的手法ではなく、自らの専門性に自信を持ち、関東学院らしい、顔の見える教育を行なう。その覚悟が必要なのです。

建学の精神に立ち返る、それを教育の現場で具現化する。それが、私たちが目指すべき未来です。

それぞれの展望

2015年度より、関東学院大学に4つの新たな学部が誕生します。
それぞれの学部は、どんな社会的ニーズを背景に、
学生たちへとアプローチするのでしょうか。

学部長に就任する教授の皆さんに、その背景をうかがいました。

校訓“人になれ奉任せよ”的精神で、社会構創力を備えた社会人を育む

「社会学については関東学院大学の伝統もあります。戦前から行われてきたソーシャル・セツルメント、特にミッション系大学の社会学部は、そうした活動に端を発しています」。

社会学部を新たに設置するに当たり、現代的な社会事業の課題を見据え、21世紀に取り組むべき社会改良の方向を考えたと大澤善信教授は言います。

関東学院大学 国際文化学部 学部長（就任予定）
大橋 一人
筑波大学および大学院にて英語学を専攻。常葉学園短期大学勤務後、1989年に関東学院大学に着任。「人間が言葉を理解する能力の裏に潜む言葉の仕組みを探ることを専門としてきました。英語の文法と日本語の文法、双方に共通するところは何か、そして違いは何かを追求する学問です」。



グローバル社会を生き抜くスキルと教養を身につけさせたい

「国際文化学部は、グローバル人材の育成を主眼としています。専攻別に英語文化学科と比較文化学科の二つの学科があります。世界共通言語としての英語科目は両学科に共通しています」。

続けて、大橋一人教授は以下のようについて説明します。英語のスキルを磨き、まずは語学力をつけ、さらには英語文化圏に対する理解を掘り下げていくのが英語文化学科。対する比較文化学科は、英語以外にもヨーロッパやアジアといった地域の文化圏を含め、日本との違いを浮き彫りにして、グローバル化に対応していくことを目標とします。学生たちは皆、グローバル社会のなかで、語学力を武器に活躍していくとする若者です。

大橋教授は、「まずは言葉が分からなければ、異文化理解には至らない」と説明します。

一方で、語学力というものは、集中して、目的意識を持って取り組まなければ高まらないと大橋教授は指摘します。

国際文化学部の魅力なのです。

社会を創造するためのグローバルな感性を磨いていく。そのきっかけを、この学部では強力に与えることがでないと大澤教授は語ります。

カリキュラムは社会学コースと社会福祉学コースに分かれます。前者は広く、民間企業や公務員としての進路を想定しています。一方で後者は選んだ学生たちは、将来、福祉施設や福祉行政に就くことを想定しています。

これらのコースでは、社会調査士の資格が与えられるカリキュラムとなっています。この資格は国家資格ではありませんが、資格取得を通じて得られる汎用的な能力は、あらゆる仕事に生かされるでしょう。

社会福祉学コースでは、国家資格である社会福祉士の受験資格が得られます。ただし単に資格取得を目的とするものではありません。この

「校訓“人になれ奉任せよ”的精神を生かす」といいます。

「以前のように海外派遣されるためだけの語学力ではなく、国内企業に就職しても、語学力のあるなしが重要な意味を帯びると考えています。真のグローバル化とは、相手の文化を尊重できる柔軟な姿勢。地域に密着した企業でも、そうした語学スキルを生かしたコミュニケーションが必要な時代がやって来るので」。

また、そのスキルとは会話のみならず、読み書きも含むと大橋教授は力説します。

「プロジェクトを滞りなく推進させるためのビジネスコミュニケーションの主軸はメールです。ですから、ライティング能力、リーディング能力は以前にも増して重要視されるべきなのです」。

国際都市ヨコハマと日本の古き良き伝統を残した古都、鎌倉に隣接するキャンパスは、日本と世界の言葉と文化を学ぶのに最適の環境。加えて、美術館、博物館、資料館といった県内文化施設と連携する講座群も学部の特色を表わしています。語学

社会を創造するためのグローバルな感性を磨いていく。そのきっかけを、この学部では強力に与えることがでないと大澤教授は語ります。

カリキュラムは社会学コースと社会福祉学コースに分かれます。前者は広く、民間企業や公務員としての進路を想定しています。一方で後者は選んだ学生たちは、将来、福祉施設や福祉行政に就くことを想定しています。

これらのコースでは、社会調査士の資格が与えられるカリキュラムとなっています。この資格は国家資格ではありませんが、資格取得を通じて得られる汎用的な能力は、あらゆる仕事に生かされるでしょう。

社会福祉学コースでは、国家資格である社会福祉士の受験資格が得られます。ただし単に資格取得を目的とするものではありません。この

「校訓“人になれ奉任せよ”的精神を生かす」といいます。

「以前のように海外派遣されるためだけの語学力ではなく、国内企業に就職しても、語学力のあるなしが重要な意味を帯びると考えています。真のグローバル化とは、相手の文化を尊重できる柔軟な姿勢。地域に密着した企業でも、そうした語学スキルを生かしたコミュニケーションが必要な時代がやって来るので」。

また、そのスキルとは会話のみならず、読み書きも含むと大橋教授は力説します。

「プロジェクトを滞りなく推進させるためのビジネスコミュニケーションの主軸はメールです。ですから、ライティング能力、リーディング能力は以前にも増して重要視されるべきなのです」。

国際都市ヨコハマと日本の古き良き伝統を残した古都、鎌倉に隣接するキャンパスは、日本と世界の言葉と文化を学ぶのに最適の環境。加えて、美術館、博物館、資料館といった県内文化施設と連携する講座群も学部の特色を表わしています。語学

社会を創造するためのグローバルな感性を磨いていく。そのきっかけを、この学部では強力に与えることがでないと大澤教授は語ります。

カリキュラムは社会学コースと社会福祉学コースに分かれます。前者は広く、民間企業や公務員としての進路を想定しています。一方で後者は選んだ学生たちは、将来、福祉施設や福祉行政に就くことを想定しています。

これらのコースでは、社会調査士の資格が与えられるカリキュラムとなっています。この資格は国家資格ではありませんが、資格取得を通じて得られる汎用的な能力は、あらゆる仕事に生かされるでしょう。

社会福祉学コースでは、国家資格である社会福祉士の受験資格が得られます。ただし単に資格取得を目的とするものではありません。この

「校訓“人になれ奉任せよ”的精神を生かす」といいます。

「以前のように海外派遣されるためだけの語学力ではなく、国内企業に就職しても、語学力のあるなしが重要な意味を帯びると考えています。真のグローバル化とは、相手の文化を尊重できる柔軟な姿勢。地域に密着した企業でも、そうした語学スキルを生かしたコミュニケーションが必要な時代がやって来るので」。

また、そのスキルとは会話のみならず、読み書きも含むと大橋教授は力説します。

「プロジェクトを滞りなく推進させるためのビジネスコミュニケーションの主軸はメールです。ですから、ライティング能力、リーディング能力は以前にも増して重要視されるべきなのです」。

国際都市ヨコハマと日本の古き良き伝統を残した古都、鎌倉に隣接するキャンパスは、日本と世界の言葉と文化を学ぶのに最適の環境。加えて、美術館、博物館、資料館といった県内文化施設と連携する講座群も学部の特色を表わしています。語学

社会を創造するためのグローバルな感性を磨いていく。そのきっかけを、この学部では強力に与えることがでないと大澤教授は語ります。

カリキュラムは社会学コースと社会福祉学コースに分かれます。前者は広く、民間企業や公務員としての進路を想定しています。一方で後者は選んだ学生たちは、将来、福祉施設や福祉行政に就くことを想定しています。

これらのコースでは、社会調査士の資格が与えられるカリキュラムとなっています。この資格は国家資格ではありませんが、資格取得を通じて得られる汎用的な能力は、あらゆる仕事に生かされるでしょう。

社会福祉学コースでは、国家資格である社会福祉士の受験資格が得られます。ただし単に資格取得を目的とするものではありません。この

「校訓“人になれ奉任せよ”的精神を生かす」といいます。

「以前のように海外派遣されるためだけの語学力ではなく、国内企業に就職しても、語学力のあるなしが重要な意味を帯びると考えています。真のグローバル化とは、相手の文化を尊重できる柔軟な姿勢。地域に密着した企業でも、そうした語学スキルを生かしたコミュニケーションが必要な時代がやって来るので」。

また、そのスキルとは会話のみならず、読み書きも含むと大橋教授は力説します。

「プロジェクトを滞りなく推進させるためのビジネスコミュニケーションの主軸はメールです。ですから、ライティング能力、リーディング能力は以前にも増して重要視されるべきなのです」。

国際都市ヨコハマと日本の古き良き伝統を残した古都、鎌倉に隣接するキャンパスは、日本と世界の言葉と文化を学ぶのに最適の環境。加えて、美術館、博物館、資料館といった県内文化施設と連携する講座群も学部の特色を表わしています。語学

社会を創造するためのグローバルな感性を磨いていく。そのきっかけを、この学部では強力に与えることがでないと大澤教授は語ります。

カリキュラムは社会学コースと社会福祉学コースに分かれます。前者は広く、民間企業や公務員としての進路を想定しています。一方で後者は選んだ学生たちは、将来、福祉施設や福祉行政に就くことを想定しています。

これらのコースでは、社会調査士の資格が与えられるカリキュラムとなっています。この資格は国家資格ではありませんが、資格取得を通じて得られる汎用的な能力は、あらゆる仕事に生かされるでしょう。

社会福祉学コースでは、国家資格である社会福祉士の受験資格が得られます。ただし単に資格取得を目的とするものではありません。この

「校訓“人になれ奉任せよ”的精神を生かす」といいます。

「以前のように海外派遣されるためだけの語学力ではなく、国内企業に就職しても、語学力のあるなしが重要な意味を帯びると考えています。真のグローバル化とは、相手の文化を尊重できる柔軟な姿勢。地域に密着した企業でも、そうした語学スキルを生かしたコミュニケーションが必要な時代がやって来るので」。

また、そのスキルとは会話のみならず、読み書きも含むと大橋教授は力説します。

「プロジェクトを滞りなく推進させるためのビジネスコミュニケーションの主軸はメールです。ですから、ライティング能力、リーディング能力は以前にも増して重要視されるべきなのです」。

国際都市ヨコハマと日本の古き良き伝統を残した古都、鎌倉に隣接するキャンパスは、日本と世界の言葉と文化を学ぶのに最適の環境。加えて、美術館、博物館、資料館といった県内文化施設と連携する講座群も学部の特色を表わしています。語学

社会を創造するためのグローバルな感性を磨いていく。そのきっかけを、この学部では強力に与えることがでないと大澤教授は語ります。

カリキュラムは社会学コースと社会福祉学コースに分かれます。前者は広く、民間企業や公務員としての進路を想定しています。一方で後者は選んだ学生たちは、将来、福祉施設や福祉行政に就くことを想定しています。

これらのコースでは、社会調査士の資格が与えられるカリキュラムとなっています。この資格は国家資格ではありませんが、資格取得を通じて得られる汎用的な能力は、あらゆる仕事に生かされるでしょう。

社会福祉学コースでは、国家資格である社会福祉士の受験資格が得られます。ただし単に資格取得を目的とするものではありません。この

「校訓“人になれ奉任せよ”的精神を生かす」といいます。

「以前のように海外派遣されるためだけの語学力ではなく、国内企業に就職しても、語学力のあるなしが重要な意味を帯びると考えています。真のグローバル化とは、相手の文化を尊重できる柔軟な姿勢。地域に密着した企業でも、そうした語学スキルを生かしたコミュニケーションが必要な時代がやって来るので」。

また、そのスキルとは会話のみならず、読み書きも含むと大橋教授は力説します。

「プロジェクトを滞りなく推進させるためのビジネスコミュニケーションの主軸はメールです。ですから、ライティング能力、リーディング能力は以前にも増して重要視されるべきなのです」。

国際都市ヨコハマと日本の古き良き伝統を残した古都、鎌倉に隣接するキャンパスは、日本と世界の言葉と文化を学ぶのに最適の環境。加えて、美術館、博物館、資料館といった県内文化施設と連携する講座群も学部の特色を表わしています。語学

社会を創造するためのグローバルな感性を磨いていく。そのきっかけを、この学部では強力に与えることがでないと大澤教授は語ります。

カリキュラムは社会学コースと社会福祉学コースに分かれます。前者は広く、民間企業や公務員としての進路を想定しています。一方で後者は選んだ学生たちは、将来、福祉施設や福祉行政に就くことを想定しています。

これらのコースでは、社会調査士の資格が与えられるカリキュラムとなっています。この資格は国家資格ではありませんが、資格取得を通じて得られる汎用的な能力は、あらゆる仕事に生かされるでしょう。

社会福祉学コースでは、国家資格である社会福祉士の受験資格が得られます。ただし単に資格取得を目的とするものではありません。この

「校訓“人になれ奉任せよ”的精神を生かす」といいます。

「以前のように海外派遣されるためだけの語学力ではなく、国内企業に就職しても、語学力のあるなしが重要な意味を帯びると考えています。真のグローバル化とは、相手の文化を尊重できる柔軟な姿勢。地域に密着した企業でも、そうした語学スキルを生かしたコミュニケーションが必要な時代がやって来るので」。

また、そのスキルとは会話のみならず、読み書きも含むと大橋教授は力説します。

「プロジェクトを滞りなく推進させるためのビジネスコミュニケーションの主軸はメールです。ですから、ライティング能力、リーディング能力は以前にも増して重要視されるべきなのです」。

国際都市ヨコハマと日本の古き良き伝統を残した古都、鎌倉に隣接するキャンパスは、日本と世界の言葉と文化を学ぶのに最適の環境。加えて、美術館、博物館、資料館といった県内文化施設と連携する講座群も学部の特色を表わしています。語学

社会を創造するためのグローバルな感性を磨いていく。そのきっかけを、この学部では強力に与えることがでないと大澤教授は語ります。

カリキュラムは社会学コースと社会福祉学コースに分かれます。前者は広く、民間企業や公務員としての進路を想定しています。一方で後者は選んだ学生たちは、将来、福祉施設や福祉行政に就くことを想定しています。

これらのコースでは、社会調査士の資格が与えられるカリキュラムとなっています。この資格は国家資格ではありませんが、資格取得を通じて得られる汎用的な能力は、あらゆる仕事に生かされるでしょう。

社会福祉学コースでは、国家資格である社会福祉士の受験資格が得られます。ただし単に資格取得を目的とするものではありません。この

「校訓“人になれ奉任せよ”的精神を生かす」といいます。

「以前のように海外派遣されるためだけの語学力ではなく、国内企業に就職しても、語学力のあるなしが重要な意味を帯びると考えています。真のグローバル化とは、相手の文化を尊重できる柔軟な姿勢。地域に密着した企業でも、そうした語学スキルを生かしたコミュニケーションが必要な時代がやって来るので」。

また、そのスキルとは会話のみならず、読み書きも含むと大橋教授は力説します。

「プロジェクトを滞りなく推進させるためのビジネスコミュニケーションの主軸はメールです。ですから、ライティング能力、リーディング能力は以前にも増して重要視されるべきなのです」。

国際都市ヨコハマと日本の古き良き伝統を残した古都、鎌倉に隣接するキャンパスは、日本と世界の言葉と文化を学ぶのに最適の環境。加えて、美術館、博物館、資料館といった県内文化施設と連携する講座群も学部の特色を表わしています。語学

社会を創造するためのグローバルな感性を磨いていく。そのきっかけを、この学部では強力に与えることがでないと大澤教授は語ります。

カリキュラムは社会学コースと社会福祉学コースに分かれます。前者は広く、民間企業や公務員としての進路を想定しています。一方で後者は選んだ学生たちは、将来、福祉施設や福祉行政に就くことを想定しています。

これらのコースでは、社会調査士の資格が与えられるカリキュラムとなっています。この資格は国家資格ではありませんが、資格取得を通じて得られる汎用的な能力は、あらゆる仕事に生かされるでしょう。

社会福祉学コースでは、国家資格である社会福祉士の受験資格が得られます。ただし単に資格取得を目的とするものではありません。この

「校訓“人になれ奉任せよ”的精神を生かす」といいます。

「以前のように海外派遣されるためだけの語学力ではなく、国内企業に就職しても、語学力のあるなしが重要な意味を帯びると考えています。真のグローバル化とは、相手の文化を尊重できる柔軟な姿勢。地域に密着した企業でも、そうした語学スキルを生かしたコミュニケーションが必要な時代がやって来るので」。

子どもの生涯発達を見通し、未来を見据える先生を育てていく

短期大学時代を含めて約40年。児童教育における長きにわたる歴史とともに、8年前からは小学校課程に向けた教員養成カリキュラムを加え、教育を前面に出して幼稚教育と初等教育の現場への人材育成を担っていくのが学部新設の目的です。

「キャンパスの隣には、幼稚園と保育園の機能を併せ持つ認定こども園があります。また本校は小学校を含む総合学院です。授業の合間にアシスタントティーチャーとして現場に出向くなど、学院の環境を生かしてより実学的に学ぶことができるのも大きなメリットだと思います」。

多世代間の交流が社会的に難しいとされている時代。それゆえ実習力リキュラムの前段階として、普段から子どもたちと触れ合う機会をつくり、子どもと向き合う感受性が引き出されていくことが大切と、土谷みち子教授は語ります。



関東学院大学 栄養学部 学部長（就任予定）

倉沢 新一

筑波大学大学院修了、関東学院女子短期大学を経て、関東学院大学へ着任。「管理栄養士の社会的意義、さらには今、学んでいることが将来どのようにして社会に役立つか。そのための資格取得と、そこに至るまでのプロセスを具体的に描き、学生たちに対して常にモチベーションを与えていくつもりです。」

「特に、乳幼児が体中から発する非言語を肌で感じ、共感できる力が保育者や教員には必要だと思います。

それは教えられて会得できるものではないかもしませんが、折に触れ、私たち教員は全力で支えていきたいと思っています」。

こうした実学的な学びとともに、教育学部では心理学の講師陣を豊かに配置していることも特徴です。

教育学部では心理学の講師陣を豊かに配置していることも特徴です。

保育所・幼稚園や小学校の先生方との研修会をはじめ、授業内容の相談

はもとより、心理面においてもス

クールカウンセラーとして教育の現

場に深くコミットしているのです。

そうした生の現場に学生たちを引き連れ、現実に起きている問題に直面しながら、現職の先生方とともに学

びあうことを行っています。

学生たちの卒業後の進路については社会からのニーズが高く、小学校、幼稚園、保育所、認定こども園に加

え、児童養護施設、乳児院、知的障がい児のための施設、学童期以降の施設等、活躍の場が想定されています。

「子どもが好き、子どもの幸せを願うのは、未来社会をどうやって作っていくかに繋がります。地域と連携して、教育者として人間として、その輪を広げていってもらいたい」と、土谷教授は願っています。

「子どもが好き、子どもの幸せを願うことは、大前提にあるんです。そのためにも管理栄養士は、幅広い教養と豊かな人間性を持つ人物である必要があります」。

「子どもが好き、子どもの幸せを願うことは、大前提にあるんです。そのためにも管理栄養士は、幅広い教養と豊かな人間性を持つ人物である必

要があります」。

関東学院大学 教育学部 学部長（就任予定）
土谷 みち子

公立幼稚園教諭を経験後、民間研究所にて臨床相談業務（親子相談）などを経て、2007年に関東学院大学に着任。「教育者とは、素晴らしい仕事です。実際の現場にはさまざまな問題が起こりますが、決して一人で抱え込まず、常に大きな視点に立って、同僚や地域社会とも連携できる先生になってもらいたいと思います。」



食と健康のスペシャリストとして信頼される管理栄養士を育てる

「高齢化社会に突入し、健康を持続していくに天寿をまつとうできるか、という問題に焦点が当たっています」。

多くの人々が患う生活習慣病に対し、食生活の改善が根本的な対応策であると、倉沢新一教授は力説します。

「そうした場面で必要とされるのは、管理栄養士としての能力。治療による医学的対処とともに、管理栄養士が提供する生活改善へのアプローチは、社会的要請がとても強いのが実情です。現代のニーズに即した管理栄養士を養成することが栄養学部設立の趣旨でもあります」。

ただ、管理栄養士は栄養学の専門知識さえあればいいというものではないと、倉沢教授は続けます。

「例えば糖尿病患者に対する栄養指導の場面を考えてみましょう。患者にとつて長年の間、習慣づけられた

食生活は、容易に変更できるものではありません。そこでは科学的根拠に基づく情報提供をする前に、まずは患者から人間として信頼してもらうことが大前提にあるんです。そのためにも管理栄養士は、幅広い教養と豊かな人間性を持つ人物である必要があります」。

管理栄養士養成施設として厚生労働省から認可を受けた専門領域に加え、人間にに対する総合理解を深める多彩な科目設定は、他大学の栄養学科はない特色の一つです。また患者への指導に際し、どう話を展開して信用を獲得するかといった実践的な技能取得のための講義も用意しています。

「患者ごとに必要とされる管理基準を満たすだけではなく、おいしいといふ満足感を同時に提供できることも重要です。つまり、食生活を中心とした“グオリティ・オブ・ライフ”

が過多といった傾向が見られます。そうした個別事情もあるとはいえ、栄養学のさらなる発展がここ日本で育まれ、その成功事例が世界へと広まっていくことを期待しています」。

学院のこんな人、あんな人

関東学院の学生や卒業生、先生方にスポットを当て、紹介します。

さて、あなたはこの人を知っていますか？

グローバル社会を見据え、子どもの意識改革をうながしたい



関東学院六浦中学校・高等学校 校長
黒畠 勝男

北海道立高校教諭、立命館慶祥中学校・高等学校教頭、酪農学園との森三愛高等学校副校長等を経て、2014年4月1日に対校長として就任。「これまで中等教育における国際化プログラムを手掛け続けてきましたが、この学院ならばもっとできるはずです。国際人材育成に貢献する具体的な戦略を積極的に進めていきたいと思っています」。

「生徒たちを早く海外に触れさせましょう。これが私の持論です」。
日本国内の内向きな受験競争に心血を注ぐではなく、10年後、20年後の世界を見定めて、生徒たちの進路を導いていく姿勢が大切だと黒畠勝男校長は説きます。

「医者になる、あるいはエンジニアになるというように、専門職として抜きん出でいくならばいいのです。しかしそうではない場合、これからは就職するにも大変です」。
黒畠校長は、アジアのなかで急速に成長が見込まれているマレーシアの間で、生徒間の交流を深めたいとも考えています。マレーシアの公用語は英語、加えてマレー語や中国語も用いられています。彼の国では3カ国語を操るトライリンガルの存在も、決して特別ではありません。

「そうした多言語環境のなかに生徒たちを送ることがポイントなんですね。仮に英語と中国語が使えるようになれば、世界人口の8割の人々とのコミュニケーションが可能です。その意味では、台湾への留学もお勧めです」。

なったがゆえに、教育がガラパゴス化してしまいました。例えば日本の教科書は、原書が訳されたものや、日本の学校版に統制的に書かれたもので、日本語です。一方でアジア諸国は、西欧列強国がかつての宗主国であることから、言語はもちろん教科書も西欧標準にされた教育システムで発展してきました。

黒畠校長は、アジアのなかで急速に成長が見込まれているマレーシアの間で、生徒間の交流を深めたいとも考えています。マレーシアの公用語は英語、加えてマレー語や中国語も用いられています。彼の国では3カ国語を操るトライリンガルの存在も、決して特別ではありません。

黒畠校長は、人生の進路を決める前にボーダーレスなコミュニケーションに身を置き、その状況を自然に受け止められるようになつてもらいたい」と指摘し、こう続けます。

「生徒たちは問題解決能力を身につけさせたい。世界のどこでも、あるいは国内の国際化環境の中でも生きていける力を持つ人間となつてもらいたいのです。なぜならば、学習成績の良し悪しだけでは生きられない世界がやって来るからです」。

平等や、一律一齊をよしとする教育システムでは、もはや不合理で不十分。歴史の次のフェーズを迎え、より個性に合わせた教育を、通常の学習カリキュラムの内と外に創設したいと、黒畠校長は語ります。

学生時代にやつていたことが、今、役立っています



フリー・ランスデザイナー
岡田 憲一 氏

関東学院大学卒業後に渡米。2008年にロイヤルカレッジオブアート、デザイン・インテラクションズ科、修士課程を修了し、現在はフリー・ランスデザイナーとして活動中。8月31日まで東京・CCにて開催された『ひらめきとはてなの工場』に自身の作品を出展。ウェブサイトで過去に制作した作品を公開している。<http://kenichiokada.com>

「いかにラクをして目的を達成するか。有史以来、人間はこの一点を追い続けてきました。しかし、これからは目的達成に至るプロセスを楽しむ時代。どちらも“楽”という文字を使うのですが、ラクから楽しいへ、すでに価値観は動きはじめていると思います」。

そう語るのは、工学部建築学科を卒業した岡田憲一さん。岡田さんは昨年までソニーに勤務し、ユーチャー・エクスペリエンスデザインを担当。スマートフォンのアプリケーション設計を通じて、ユーザーがどのような体験をして次のアクションを起こすのかを考え続けてきました。

「一見、建築とは関連性がないようになりますが、僕にとっての視点は同じ。学生時代に学んだことが今の仕事に役立っています」。

学生時代師事した黒田泰介教授の勧めにより、対象建築を見学する際は、必ず自分の手を動かしてスケッ

チに収めることを義務づけた岡田さん。その地道な作業を通じて、人間が空間や建築に對してどのようにアプローチするのかを考えるようになったと言います。

「卒業を目前にした海外旅行で、思いはさらに強くなりました。ロンドンのシェアフルットで過ごした際に、ノーマン・フォスター建築事務所で働く人物とたまたま交流する機会があつて。その彼から、建築とは、そこ

で人間がどのような体験をして、どのような目的を果たすかなんだ。だから、もっと人が何を感じているか、そうした視点を養わなければならぬ」と教えていただいたんです」。

岡田さんは関東学院大学卒業後にイギリスでインテラクティブラーニングを学び、帰国。ソニーを経て、現在はフリー・ランスデザイナーとして新たな一步を踏み出しています。

「これから手掛けたいと思っているのは、インテラクションが空間に

なつたがゆえに、教育がガラパゴス化してしまいました。例えば日本の教科書は、原書が訳されたものや、日本の学校版に統制的に書かれたもので、日本語です。一方でアジア諸国は、西欧列強国がかつての宗主国であることから、言語はもちろん教科書も西欧標準にされた教育システムで発展してきました。

黒畠校長は、アジアのなかで急速に成長が見込まれているマレーシアの間で、生徒間の交流を深めたいとも考えています。マレーシアの公用語は英語、加えてマレー語や中国語も用いられています。彼の国では3カ国語を操るトライリンガルの存在も、決して特別ではありません。

黒畠校長は、人生の進路を決める前にボーダーレスなコミュニケーションに身を置き、その状況を自然に受け止められるようになつてもらいたい」と指摘し、こう続けます。

「生徒たちは問題解決能力を身につけさせたい。世界のどこでも、あるいは国内の国際化環境の中でも生きていける力を持つ人間となつてもらいたいのです。なぜならば、学習成績の良し悪しだけでは生きられない世界がやって来るからです」。

平等や、一律一齊をよしとする教育システムでは、もはや不合理で不公平です。仮に英語と中国語が使えるようになれば、世界人口の8割の人々とのコミュニケーションが可能です。

その意味では、台湾への留学もお勧めです」。

なつたがゆえに、教育がガラパゴス化してしまいました。例えば日本の教科書は、原書が訳されたものや、日本の学校版に統制的に書かれたもので、日本語です。一方でアジア諸

国は、西欧列強国がかつての宗主国であることから、言語はもちろん教科書も西欧標準にされた教育システムで発展してきました。

黒畠校長は、アジアのなかで急速に成長が見込まれているマレーシアの間で、生徒間の交流を深めたいとも考えています。マレーシアの公用語は英語、加えてマレー語や中国語も用いられています。彼の国では3カ国語を操るトライリンガルの存在も、決して特別ではありません。

黒畠校長は、人生の進路を決める前にボーダーレスなコミュニケーションに身を置き、その状況を自然に受け止められるようになつてもらいたい」と指摘し、こう続けます。

「生徒たちは問題解決能力を身につけさせたい。世界のどこでも、あるいは国内の国際化環境の中でも生きていける力を持つ人間となつてもらいたいのです。なぜならば、学習成績の良し悪しだけでは生きられない世界がやって来るからです」。

平等や、一律一齊をよしとする教育システムでは、もはや不合理で不公平です。仮に英語と中国語が使えるようになれば、世界人口の8割の人々とのコミュニケーションが可能です。

2週間に1度のペースで山に向かいます

「山登りをはじめたのは、30歳を過ぎてから。当時まだ結婚前ではありましたが、妻との共通の趣味を作ろうとしたのがきっかけです」。

日本の百名山から、まずは群馬県の赤城山にチャレンジしたという鈴木公基准教授。後年、数日分の食料を背負って山に入るようになるとは夢にも思わなかったそうです。

「月並みかもしれません、目の前に広がる景色がぜんぜん違うんですね。都会の喧



北岳で撮影した天上のお花畠。残雪がなくなる7月頃から、高山植物は一斉にその花を咲かせます。この付近一帯は、まさに花の絨毯となるのです。

噪を離れ、ゆっくりと静かに過ごせることも、山に魅了されていく要因だったと思います」。

鈴木准教授は、山の中では教わることがとても多いと言います。

「我々の生活は、整備されたインフラの上に成り立っているんですね。水道、電気、ガス、そうしたものが当たり前にある中で日々暮らしています。ところが山では飲み水をどこで調達するかを考え、灯りや熱源も自前で用意する必要があります。日常では当然のように思っていることが、実はそういうではないと気づかされる瞬間です」。

山の高みを目指すことだけが目的ではなく、自然と親しむことも楽しみの一つとする鈴木准教授。それが高じて、今では雪山にも挑戦するようになりました。四季折々であるで違った顔を見せる山に対して「過ごしやすい季節にだけ行って、その山のことが理解できたとは自分には思えない」のだそうです。

そんな鈴木准教授にお気に入りの場所



雪山への入山には、30キロ近くにもなるザックを背負う、鈴木公基准教授。「週末にまた山に登りたくなるくらい、ストレスを抱えておくことが原動力ですね(笑)」。

を問うと、いの一番に北海道の大雪山系が挙がりました。

「旭川から帯広方面に向かって山々を越えていくルートは、移動距離にして数十キロ。体力的にもかなり大変ですが、常に新たな気づきがもたらされ、とても興味深いんですね。北海道の山は、長い間雪に閉ざされているだけに、春には一気に草木が芽吹きます。本州の山々と違って、入山者も少なく、自然の表情がとびきり豊かなのがたまりません」。

ディレッタントたち Vol. 3

イタリア語の“喜びを見出す人”が語源のディレッタント。学院関係者の知られざる趣味を探るこのコーナー。今回登場するのは、スポーツに勤しむこちらのお二人です。

海の楽しさを皆さんに知ってほしい



「ウィンドサーフィン歴14年。「地形と天候から風が集まるポイントを割り出し、水面の揺れを見て機敏に判断する」など、この競技は、海の上の頭脳戦という側面も強いそうです。

「ウィンドサーフィンは、ヨットと同じくセーリング競技のカテゴリー。固体もあり、オリンピック種目にもなっています。言葉は似ていますが、波に乗るサーフィンとはまったく異なるスポーツです」。

小池哲史さんは関東学院大学に通った学生時代にウィンドサーフィン部に所属。現在は横浜・金沢八景キャンパスで学生たちの就職活動をサポートする傍ら、今度はウィンドサーフィン部の監督として部

関東学院大学 就職支援課 小池 哲史

員の指導に当っています。

「はじめは難しくて、ボードの上に立つことさえままなりません。けれども風を捉えた瞬間の爽快感はたまりませんね」。

この競技は、大学に入ってから始める学生がほとんど。それゆえ「大学からスタートしても頂点を極められる可能性は十分にある」と小池さんは続けます。

「関東学院大学は、過去にも全国優勝を経験した強豪校。当時、私が学生だった頃、アテネオリンピックやシドニーオリンピックへの出場に向け、練習を重ねる先輩の姿を目の前にして、いい刺激をもらいました」。

ウィンドサーフィン部の練習場所は、鎌倉の材木座海岸。関東学院大学の地の利なら、午前中に練習をして、午後に授業に出席することも可能です。そして海に行けば、誰かしら仲間がいる、そんな環境もお互いを高め合う一因となるのでしょうか。

「上達への近道はありません。海に行った回数だけ上手くなる。日々の努力こそが競



2011年には、サンフランシスコで行われた世界選手権大会に、学生たちとともに参加。普段は学生たちを撮影する側に回るので、自身の写真は少ないのだとか。

関東学院を卒業した国際人 Vol.3



1988年関東学院大学文学部英米文学科卒業
アーカンソー大学 准教授

福島 達也 氏

オリーブ・スピリットのもと、異国の地で人生を歩んでいる先輩方がいます。福島達也さんは14年間に亘り、アメリカ・アーカンソー大学で日本語を教え、同国内での日本文化の理解に貢献しています。

私は現在、アメリカ南部にあるアーカンソー大学フルブライト教養学部世界言語学科で准教授、日本語課程主任教授として日本語と言語学の講義を担当しています。

学生時代には、英語を使う職業に満足していた英語力がいかに幼稚だったかを思い知られたのです。けれど、御園和夫名誉教授のゼミに参加したことときっかけに、それまで自分がなれば自己満足レベルで斯高い能力の人気がいました。彼らの存在がなれば自己満足レベルでステップしていくでしょうし、努力すればゼミには自分よりもはるかに代の趣味は「英語力をつけること」と言えるほど、英語を真摯に学んでいましたね。

留学に際して御園先生には「聞く力、話すは住んでいればある程度できるようになる。だが、読む力と書き力はその場にいるだけでは身につかない」と、言葉があつたからくじけずにやってこられたと思います。た。留学中はレポートを提出するたびに文法の間違いを訂正されましたが、先生の言葉があつたからくじけずにやってこられたと思います。

今振り返れば、関東学院大学で御園

先生時代には、英語を使う職業に満足していた英語力がいかに幼稚だったかを思い知られたのです。けれど、御園和夫名誉教授のゼミに参加したことときっかけに、それまで自分がなれば自己満足レベルで斯高い能力の人気がいました。彼らの存在がなれば自己満足レベルでステップしていくでしょうし、努力すればゼミには自分よりもはるかに代の趣味は「英語力をつけること」と言えるほど、英語を真摯に学んでいましたね。

今後の目標は「アメリカ南部で日本語を学びたいならアーカンソー大学へ行きなさい」と評価されるプログラマムに育てる。研究面では専門分野に偏りがちなので普通の方に読んでもらえるような一般書を書きたいですね。普通の方々が読むことで、広く日本に関心を持つていただけますし、もっと日本の本質を理解してもらえるのではないかと期待しているのです。

私がアーカンソー大学に籍を置いて14年の間に、日本の文化やアメリカ人気を受けて、日本語に興味を持った学生は明らかに増えています。しかし、現状で満足するのではなく、実力は外に発信してこそ認めてもらえるもの。そのため、カリキュラムを見直したり、日本語スピーチコンテストを実施するなど、学生の実力を発信する機会を設けるようになります。

力は外に発信してこそ認めてもらえるもの。そのため、カリキュラムを見直したり、日本語スピーチコンテストを実施するなど、学生の実力を発信する機会を設けるようになります。

福島さんはアメリカでの日本語教育の成果が認められ、2005年、アジア人教授で初となるフルブライト教養学部最優秀教授賞を受賞。また2013年9月にはアメリカにおける日本語教育普及への貢献により、在ナッシュビル日本総領事館から、在外公館長表彰を受けられました(写真左2枚:写真提供/Kirk Lanier(左)、アーカンソー大学(右))。今年7月4日には、関東学院六浦中学校・高等学校5年生を対象に「自分をどう生かすか」をテーマに講演会が行われ、後輩たちはメッセージをしっかりと受け止めた(写真右)。



Cosmopolitan Graduate of Kanto Gakuin

Tatsuya Fukushima is Associate Professor and award-winning coordinator of the Japanese language program at Fulbright College of Arts & Sciences, University of Arkansas

Tatsuya Fukushima currently teaches Japanese language and linguistics courses at the University of Arkansas. During his first years at Kanto Gakuin University, he hardly imagined using English in his future job. After taking Prof. Kazuo Misono's seminar, however, he began to dedicate himself to improving his proficiency and eventually took the path to the academic profession he holds today.

During 14 years in Arkansas, Fukushima thoroughly reformed the curriculum of the Japanese program to give his students a chance to prove that they are nationally competitive. By bringing a JLPT test site to Arkansas in 2009, Fukushima contributed greatly to the advancement of Japanese language education in the U.S.

Fukushima strives to build one of the reputable Japanese language programs in the South, while he plans to write a book in Japanese language and culture for general readers.

海外で活躍している
このページに登場してくれ
る卒業生をOLIVE-SPIRIT
では募集します！
自薦、他薦を問いません。
kouhou@kanto-gakuin.ac.jp
までご連絡ください！

関東学院ネットワーク

関東学院の卒業生が経営に携わっているお店に行ってきました。今回は中華と天ぷら、ふたつの“美味しい”をご紹介いたします。



本格上海料理をカジュアルな雰囲気のなかで！

虹桥

週替わりのランチセットは900円。4種類の料理の中から選べます。その1つ、白身魚の野菜甘酢あんかけは、軽やかな口当たりの衣に餡がよく絡みます。また、おひつで提供される白飯（コシヒカリ）はおかわり自由、食欲旺盛な学生さんも大満足！日本中国料理協会より表彰された本格派の味をリーズナブルな価格でご堪能ください。ほかにも料理2品、チャーハンなどが1プレートに盛られたランチプレート1,000円も好評です。

営業時間／11:30～15:00、17:00～21:00 定休日／日曜・祝日
神奈川県横浜市中区太田町5-69 Tel.045-227-5595
<http://www.ko-kyo.com>



横浜官庁街にあり、関東学院KGU関内メディアセンターにも程近い上海料理店「虹桥」(こうきょう)。ベージュ系の心あたたまる空間にラタン材を使用したスタイリッシュな調度品が映え、女性一人でも入りやすい雰囲気を持っています。この店舗は中華街で代々、料理店を営んできた秘伝の味を引き継ぎ、お客様とのフランクなコミュニケーションがとれるようにと先代のオーナーシェフが作った全40席の小さな名店。今も変わらぬ味を提供し

続けています。

その自慢のメニューの一つが焼壳。独特のやわらかな食感は、たまねぎが多く使用することでふくらと仕上げています。また人気のチャーシューは、お土産として持ち帰ることもOK。「チャーシュートマト」(600円)は、紹興酒のお供にもぴったりです。

「虹桥」ではランチタイムの各種定食はもちろん、ディナー時にもセットメニューを用意(1,500円～)。前菜・点心・メインを、一人前

からお得に楽しめるので、夕食を一人手軽にとりたい時にもお勧めです。ピューレにしたマンゴーを固めたマンゴープリン、杏仁豆腐などのデザート類もすべて自家製。こちらも、お試しあれ！



ごま油と落花生油で揚げた、軽やかな天ぷらに舌鼓

天吉

人気メニュー「濱天丼」(1,620円)は、天吉創業当時のレシピを5代目の茂男さんが再現したもの。その昔、本牧の海で捕れた芝海老、キス、貝柱、イカをネタに使用。大きな海老の代わりに芝海老をかき揚げにして提供しています。1階はカウンターとテーブル席。2階には予約可能な厨房付きの個室があります。

営業時間／11:30～14:30、17:00～21:30(火～金曜)、11:30～21:30(土曜)、11:30～20:30(日曜・祝日) 定休日／月曜
神奈川県横浜市中区港町2-9 Tel.045-681-2220
<http://r.gnavi.co.jp/g957000/>



創業明治5年の江戸前天ぷら「天吉」は、浜っ子なら知らない人はいないと言われる超有名店。5代目店主、原 茂男さんの息子さんは関東学院大学の卒業生であり、さらにあの国民的グループ、サザンオールスターズの原由子さんは、茂男さんの実妹です。

「ごま油と落花生油で揚げる天ぷらは、胃にもたれないおかげさまで大評判。特に落花生油は成分的にオリーブオイルに近く、身体にとってもヘルシーなんです」(原 茂男店主)。

天吉では代々、独自に配合したこの特製油

を使用してきたそうですが、落花生油を使用することで、外側はさっくり、内側はしっとりという独特の食感が生まれます。

また天吉は、お酒の種類も豊富ですが、なかでも一度試してみたいのが、天ぷらに合う赤ワイン。「テンプラニーリヨ」という名称はまさに偶然の一致で、スペインのリオハ地方に伝わるブドウの品種です。「ソムリエ曰く、天ぷらには魚介類の素材を生かす白ワインが合いますが、樽で熟成したテンプラニーリヨは香り高い油で揚げた天ぷらにもよく合う」と

か。天吉自慢のサクッと軽やかな天ぷらを肴に、横浜らしく洋酒で乾杯というのも素敵ですね。店内には厨房付きの個室も用意。4,400円(税・サ別)のコースから、職人さんをグループで独占、揚げたてを目の前で提供していただけます。

広報企画課から

世界的なグローバル化の急速な進展、ICTの技術発展に伴う社会構造の変化、爆発的な人口増に伴う食糧問題をはじめ、環境、エネルギー、資源、地域格差等の諸問題に加え、わが国では、世界に先んじた少子高齢化の進展による社会活力の低下、社会福祉の在り方など、現在、直面している課題は膨大です。関東学院では、この様な時代において、これから社会に必要とされる教育とはなにか、人材とはなにか、社会から信頼される教育機関とはなにか、という自問自答をしながら、継続的に改革を進めて来ましたが、2014年、社会の、地域の、また自身のさらなるブレイク・スルーに向けた新たなチャレンジに取組みはじめています。将来の関東学院のあるべき姿を描き、それを具体的に実行していく。その根幹となる「未来ビジョン(仮)」策定に向けた決意を、増田理事長、本間常務理事、規矩学長が今号の巻頭で語っています。これからの関東学院の新たなチャレンジにぜひ期待ください。

関東学院 広報企画課：(045)786-7006 / kouhou@kanto-gakuin.ac.jp



NPO法人 横濱金澤シティガイド協会 理事長
廣田 保 氏

防衛省、民間企業を経て、現職。2012年に瑞宝小綬章を受章する栄誉に輝く。同協会は、2009年春より年2回、関東学院大学公開講座「歴史に親しむ金沢—楽しい街歩きを—」を担当。全5回のカリキュラムの中で講義は4回、残りの1回は実際に街に出で、史跡をめぐります。2014年秋の講座も同氏が担当します。

横浜ちよつといい話

昨年、鎌倉は残念ながら世界遺産登録が見送られましたが、「武家の古都・鎌倉」として21ある構成要素の二つが、この金沢区にあります。その一つが称名寺であり、もう一つは朝夷奈切通です。関東学院大学社会連携センターでは、この金沢区に精通する「横濱金澤シティガイド協会」主催の人気プログラムを用意しています。

現在の横浜市金沢区は、古くは六浦庄(むつらのしょう)と呼ばれていた六浦、金沢、釜利谷、富岡の4つの郷から成り立つ莊園でした。このエリアでもっとも広く知られている歴史的名所が称名寺。このお寺は鎌倉時代の後半に建立されました。鎌倉縁辺にあ

り、北条氏ゆかりの一族(金沢北条氏)による寺として有名ですが、その金沢北条氏は文物を収集し、金沢文庫を形作った一族です。鎌倉時代の貴重な史料は六浦庄に集まり、日蓮聖人や兼好法師といった偉人たちもここで学びました。

金沢文庫の所蔵物は文献史料に留まりません。なかでも

金沢北条氏四代の肖像画は国宝に指定されています。また

『文選集注』は、中国にも伝本のない貴重書。これらは不定期ですが一般公開もされています。

金沢文庫は、この金沢地区塔頭の一つ、大宝院に金沢文庫を再建しましたが、大正12年

伊藤博文は、この金沢地区塔頭の一つ、大宝院に金沢文庫を再建しましたが、大正12年

の称名寺へと続きます。
金沢八景から金沢文庫へと
向かう旧国道は、歴史の道。
この道沿いにあった東屋とい
う割烹旅館に、かつては多く
がて時とともに廃れ、所蔵品
も散逸してしまいました。

明治に入り、初代首相伊藤
博文は日本国の大憲法を
起草します。その際、
博文中に新憲法を
寄贈することで、金沢文庫の
再興を図りました。

金沢八景から金沢文庫へと
向かう旧国道は、歴史の道。
この道沿いにあった東屋とい
う割烹旅館に、かつては多く
がて時とともに廃れ、所蔵品
も散逸してしまいました。

六浦庄は、鎌倉時代には金
沢文庫に貴重な文献が集ま
り、江戸時代には風光明媚な
場所として江戸町人からの憧
れとなり、そして明治時代に
は伊藤博文らがこの地で近代
化政策に勤しみました。

付近には「明治憲法草創の碑」
が建っています。歴史の道に
立地する、徳川家康も訪れた龍華寺
や、付近の総鎮守とされる金澤
八幡神社などが点在、先述
した時代の折に触れ、歴史
にこの地が登場してきたわけ
です。



かつて瀬戸橋近くには、旅館や料亭が立ち並んでいました。その中の一つが東屋です。現在、東屋跡付近には「明治憲法草創の碑」が建っています。

A tale of Yokohama

As told by Tamotsu Hirota, Director of Yokohama Kanazawa City Guide Association (NPO). Honored by the Order of the Sacred Treasure in 2012, he is very familiar with the Kanazawa area and organizes popular public sessions at Kanto Gakuin University Public Relations Office.

Shomyo-ji Temple (built in the late Kamakura era) was once the temple of the Hojo family, who created a precious literary archive here. Now a museum, it includes some designated national treasures occasionally available for public viewing. After the Kamakura regime fell, the archive was abandoned and its collection scattered. However, with the writing of Japan's first Constitution in the Meiji era, interest in the Kanazawa Bunko archive grew, generating many private donations of Constitution-related materials. After the 1923 Great Kanto earthquake, the Kanazawa Bunko archive was rebuilt in its current form within the grounds of Shomyo-ji Temple. The old highway from Kanazawa Hakkei to Kanazawa Bunko is dotted with historical sites, including the Azumaya Inn, beloved by many literary figures, as well as Ryugeji Temple and Kanazawa Hachiman Shrine. Renowned in the Kamakura era, it was a focal site of social design in the Meiji era—the Kanazawa district has appeared in multiple roles throughout Japan's history.



Contents

- P.2 関東学院の未来像
- P.4 それぞの展望
- P.8 Who's Who?
- P.12 関東学院を卒業した国際人
- P.13 ディレッタントたち
- P.14 横浜ちょっといい話
- P.15 関東学院ネットワーク



関東学院六浦小学校にて撮影。
 2014年7月19日(土)に開催された
 「夏の夕べ」の「こどもステージ」の
 なかから。

Table of Contents

- P.2 Future image of Kanto Gakuin
- P.4 Respective Outlooks
- P.8 Who's Who?
- P.12 Cosmopolitan graduate of Kanto Gakuin
- P.13 Dilettantes
- P.14 A tale of Yokohama
- P.15 Kanto Gakuin Network

学校法人

関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
 法人事務局 045-786-7028(代)

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>